

校長先生の初恋物語

第28話 むちゃな作戦



アマーラさんに一番つらくあたるのは、コージ君です。とっくんも、コージ君は苦手です。コージ君が人をばかにするのは、くせみたいなものです。弱虫なとっくんのことも、ちょいちょいばかにしてきます。ちん君の考えたミッタの3つ目の作戦とは、コージ君を4人目のミッタの仲間にするというものです。

この作戦を最初聞いたとき、とっくんは大反対しました。だって、アマーラさんを一番苦しめている人です。

でも、ちん君は一步も譲りません。

「とっくんは、知らないんだよ。コージ君はそこまで悪い人じゃないよ。ぼくは、時々コージ君とも遊ぶんだ。本当はいいやつだよ。」とっくんは、まったくなっとくがいきません。

「学校では、調子にのってあんなことしてしまうんだよ。その心がだめだってことに気づかせないと、何も変わらないよ。だったら、仲間にするんだよ。コージ君の心を、ミッタが変えるんだ。」

とっくんは悩みます。アマーラさんはもっと悩んでいました。

「とっくんとアマーラさんが、コージ君のことを嫌っていたらだめだよ。とっくんとアマーラさんの心も変わらないとだめなんだよ。」ちん君のせつとくにより、最初にアマーラさんがコージ君をミッタの仲間にすることを受け入れました。続いて、とっくんも、アマーラさんがいいならと、受け入れました。

数日後、とっくんとちん君とアマーラさんは、お寺の本堂で、コージ君を待ちました。コージ君には、「今日は、ちん君のお寺に来てほしい。」と約束をしていました。コージ君は、「行くかどうかは分からない。気が向いたら行くよ。」と言っていました。

ちん君のお寺で待っていたら、コージ君が来ました。コージ君は、アマーラさんがいることに気づいたら、ちょっと嫌そうでした。

「来てやったぜ。なんだよ、用事って。」

コージ君は、強がっているように見えました。アマーラさんには背

中を向けていました。アマーラさんも、コージ君が来たら、あわてて上げてあったかみの毛をもどして、おどおどしてしていました。

ちん君が、ていねいに、これまでのことをすべて話していきしました。アマーラさんが苦しんでいること、なんとかするためにミッタをつくったこと、なんとかするためにコージ君も仲間になってほしいこと。最初はたいどが悪かったコージ君でしたが、最後までだまって聞いてくれました。アマーラさんはコージ君が来てから、ずっとつむいたままでした。コージ君の顔をまったく見ることはできていませんでした。

ちん君のすべての話が終わったところで、お寺が静かになりました。その静けさは、とてもとても長く感じました。ちん君はずっとコージ君をにらむようにして見ていました。とっくんはドキドキしながら、3人の顔を順番に見ていました。静けさを終わらせたのは、コージ君でした。

コージ君は、アマーラさんの目の前に行きました。そしてこう言いました。

「今までごめんね。アマーラさん。」

小さい声でしたが、確かにそう言いました。アマーラさんは顔を上げました。そしてコージ君を見ていました。すると、アマーラさんはぼろぼろと、泣き出してしまいました。泣きながら、アマーラさんは言いました。

「いいよ。」

コージ君は、アマーラさんが泣き出してしまい、困っていました。

「泣くなよ。ごめんごめん。おれが悪かったよ。今まで、本当にごめん。」

何度も何度も頭を下げて、あやまっていました。その姿が、ちょっとおもしろくて、とっくんは、くすくすと笑ってしまいました。ちん君も笑っていました。泣いていたはずのアマーラさんも、なみだは流しながら、笑っていました。コージ君だけは、こまりはてて、みんなが笑っていても、ぺこぺこあやまっていました。

なんと、ミッタに、コージ君が加わりました。とっくんには信じられませんでした。コージ君と友達になる日が来るなんて……。

「さあ、とっくん。いよいよ最後の作戦だよ。」

ついにミッタの最後の作戦。その作戦で、一番かつやくしてくれたのが、新メンバーのコージ君でした。



次回予告 涙のオクラホマミキサー